

吉見地区まちづくり集会（H25.9.23開催）

吉見地区まちづくり集会

◎日 時 平成25年9月23日（日）10:30～12:00

◎場 所 吉見公民館

◎出席団体数 15団体

吉見地区自治連合会、吉母町連合自治会、吉見西田川・河川・海岸愛護推進委員会、吉見小学校PTA、吉見中学校PTA、吉見婦人会、下老連吉見支部吉見長寿会、吉見地区民生児童委員協議会、吉見地区民生児童委員協議会、下関市消防団吉見分団、吉見文化協会、吉見教育後援会、萌え気会、吉見西田川ホテル祭り実行委員会、(株)前田石油

◎市出席者 総合政策部政策調整監：星出恒夫、総合政策部部次長：大崎信一
地域支援課主幹：秋枝淳司、主任：齋藤浩三
吉見支所支所長：山崎優子

◎傍聴者 無

◎次第

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 開 会 | 10:30～ |
| 2 部次長あいさつ | |
| 3 基本的な推進方向について | 10:35～ |
| ・総合政策部政策調整監から説明 | |
| 4 地域の現状と将来を見据えた課題について | 11:05～ |
| (1) 地域課題について | |
| (2) 課題解決や活性化などについて | |
| (3) 総括 | |
| 5 閉 会 | 12:00 |

◎まちづくり集会の目的

地域の自主性と独自性を活かし、市民と地域と行政がお互いの立場を尊重した本市にふさわしい参加と協働によるまちづくりを実現するため、住民自治による地域分権を推進することとしている。

そのため、様々なまちづくり団体が一堂に会し、基本的な推進方向や身近な地域の課題などについて話し合う「まちづくり集会」の場を提供し、住民自治によるまちづくりの機運を高めることを目的とする。

吉見地区まちづくり集会（H25.9.23 開催）

【開催の様子】

9月23日に開催した吉見地区まちづくり集会へは、地域づくりなど、地域活性化のための諸活動を自主的・主体的に行っている団体等から16名にご参加いただき、自治連合会長を司会として、吉見地区が抱え地域課題、地域の活性化に向けた意見交換などを行いました。



【課題整理結果】

吉見地区まちづくり集会の中で、参加者どうして話し合われた内容を、地域課題とその解決方法とに分け、コンパクトにまとめています。

課題解決や活性化につながる意見は、個人で解決すべきものは自助、地域で解決すべきものは共助、行政が解決すべきものは公助に分けて表示しています。

吉見地区まちづくり集会

9月23日

地域課題	個人で解決するもの （自助）	地域で解決するもの （共助）	行政が解決するもの （公助）
地域活動			
地域活動の重複など複雑化している		地域活動・要望等の一本化（集約）	
まちづくり			
地域の人口減少に懸念(市街化調整区域等の理由)	個人レベルでも地域の活動を知る努力をする	活動等の情報共有・話し合いを地域・世代間で行う 地区のまちづくりを全体・長期で考える	他市の良い事例を地域に紹介
地理的要因によって地域単独の活性化が難しい			行政主導(アドバイス)による他地区との連携促進
地域の連携が少ない			子供を増やす施策の強化
若者には地区活動が分かりづらい			
教育			
小学校の継続(吉母)			
環境			
荒廃地が増えている			
観光			
地域観光資源を生かし切れていない			
		(その他) 地域には様々な団体があるが、活動に参加しない人々にはその役割が分かりづらいので、団体を分かりやすく整理する人がいれば良い	

【議事：地域の現状と将来を見据えた課題について】

【司会】

いきなり今、司会進行ということでございます。今、政策調整監の方から色々ご説明がございました。これによって、課題について皆様のご意見を伺いながら、司会を進めてまいりたいと思います。よろしくお願ひします。

まず地域課題について、皆様からそれぞれご意見を頂きたいと思ひますので、忌憚のないご意見を願ひしたいと思ひます。

時間に追われるような今日の会議ですから。それでは1 1時半頃まで、今からご意見を頂きたい。

まずは地域課題について、それぞれ皆さんご意見があったらどうぞ願ひします

【市】

頂いた課題は、コンパクトな形でスクリーンに表示していきます。

【市民】

この説明の中にも、大体、住民自治によるまちづくりとかが入っていて、どこでも同じことだと思ひますが、高齢化、それから少子化、あと若い世代は忙しいといったトリプルの要因で、こういったことは吉見地区にもあって、しかもこういうボランティア活動みたいなものが沢山あるけど、リーダーはそういうところに、みんな同じような人が顔を出している訳ね。

若い世代は、働くのに忙しいから参加したくてもできない。

少しと言うか、ずっとと言うか、我々、若い世代から見ると、住居の世帯数が私の町ではものすごく増えている。ところが、昔のように、コンパクトにやっていたときの方が、例えば大きな祭の参加なんかも人数が多いんです。戸数は増えているのに、だんだん参加者は減ってきている。

例えば、今度も祭があるのですが、男の子の長男が馬に乗るんですけど、そういうところに乗るのは次男じゃ乗れないという名誉がある。だけど次男もいないので、女の子を乗せなきゃいけないというほど少子化になってきている。こういう実態が、各所で同じことが言われていると思ひます。まず一番先に問題がある。

本当は、そういう少子化とか高齢化というものは、防げないものだと思いますけど、こういうことをしてくれ、ああいうことをしてくれ、というのを一本化して、ボランティアをするのをコンパクトにまとめるということも必要なんじゃないかと。

これは非常に難しい話で、実現も難しいだろうということは、各種会議に参加して分かっているのですが、実際には、そういう事もやらないといけない。

これは今度やりますが、この上に立つような組織づくりですけど、これはまた一つ増える訳です。誰がリーダーになりますか。当面の運営資金っていうのは会合、ある程度の会合費で良いんでしょうけど、誰がやってこれを継続させていくか。ここで問題にぶち当たるんです。どこも精査せずに、こんなことをやっていけば、どんどん自治連合会長の役職が増えていく。それは、私が今発言してどうこうなるという事じゃなくて、みんなで持ち

合って、一つ私もちょっと足を入れて参加しようかという気分なるように、一杯まちづくりを宣伝していくことが大切であり、ここにもずっと夏祭りをやられてきた実行委員会の会長がいますけど、そういう方が一所懸命やられて、そういう方を継続して盛り上げるように、みんなで努力して持っていくことが大切ですが、ただ、どうやっていくかということです。一所懸命やっていかなければいけないと思います。ちょっと中途半端で申し訳ない。

【司会】

どうもありがとうございました。

その他にございませんか。せっかくお集まりいただいていますので、どなたかございませんか。

【市民】

吉見の現状については、皆さんもよく知っておられるとは思いますが、少子高齢化であり、特に吉見地区はそんな時期に来ていて、それで一番困るのは、同居家族が少なくなってきたというか、若い世帯が少なくなってきたことです。

そういった方々が少なくなってきたのと同時に、吉見地区は市街化調整区域となっているため、新たな宅地造成ができない。

だから、地区外から家を建てて移り住む人が非常に少ないので、これから10年先、15年先になると非常に人口も減ってくると思いますし、空き屋もどんどん増えてくると思います。

もしも市街化調整区域が解除されれば、吉見駅の裏の土地なんかにも、すぐに宅地造成できると思うのですが、それができずに今は自然のままというか、湿原状態です。

そういう所も、後々に回さず、今からでも変えられるものは早めに変えていかないと、衰退してからではもう遅いと思います。

今は、吉見にスーパーが一つありますが、そこも収益が悪くなれば、いつ撤退するか分からないような状況です。スーパー過疎とか色んな状況を考えると、やっぱり人が住まない物流もできません。

ここには大学や自衛隊があるのに、そういうものがどんどん撤退していくというのは、何か一つ、町に元気がないのかと思います。

早いうちに手を打たないと、吉見は環境的に非常にいい場所なんですけど、皆どうしたらいいのか分からないという状況です。

これを行政の方に、色々な全国の成功例というのを見つけて来ていただいて、こういった方法で成功した例がありますよ、といった情報提供をして欲しいと思います。

【司会】

ありがとうございました。この課題は、随分前からの、吉見の大きな課題なんです。もちろん、吉見を活性化しようと思えば、やっぱりあそこ以外には無いんです。これには、もちろん地域性もありますが、やはり地主のいる土地ですから、行政側で強引にやるという訳にもいきませんが。

あの土地は、恐らく調整区域内だと思うので、勝手には動かせるかどうか、その辺のと

ころ、私は専門的な事がよく分からんのですが、それが大きく足を引っ張ってるのは間違いない事実です。

去年か一昨年、内日地域では一部地域を調整区域から外したので、吉見地区でもそれをやってもらえると、見直してくれると助かるんです。

それから、今の課題はそうだと思います。その他に皆さんございませんか。

【市民】

今、自治連合会長が言われた事に若干関連しますが、吉見という所は昔から、合併する前でも後でも、やっぱり一番の課題というのは、地理的なことでまず後背地が無い。

安岡それに黒井、川棚、これは結構元気を出したんです。やはり吉見に後背地が無いという地域的なこととか、それから交通のこともあります。

先ほどから地域のことが出ていますが、地域分権も吉見だけ単独で考えるのはちょっと難しいと。

地域というものを、どこまでの範囲で市が考えられているのか、あるいは安岡なのか、又は黒井、川棚なのか。

これによって各土地の、その地域の特徴もあるし、歴史もある訳です。

だから、単独では出来ないという事であれば、点と点で結んで面的なものを出していくだとか、そういうことは基本的に市で考えて頂いて。

これを行政ばかりに言うと怒られるんですけど、今こういった地域で、どこでもそういった賑わい創設を何とかしなきゃいけないと、皆さん考えておられます。

その中で少子高齢化が原因なら、それなりのことを考えなきゃいけないが、地元の支援もなかなか無いので、市の方で考えて頂ければと思います。

本当であれば、地元の人たちがもっと細かく地元を歩いて、ここにはどういう道があって、どういうものがあるって、という事を案外地元の人でも知らないことが多い。

そういうことを一般的には観光資源と言いますが、そういうことも必要でしょう。

今、地域の考え方を、市の方で今から考えていくことでしょうが、今の時点でどういう考えが出ておるのかということと、将来的に、何か市の関わり方だとか、少しその辺を教えてください。今すぐ、お答えできなくても結構ですが。

今、地域支援課の方の予算内容というのを少し、私が言っても、今ここではお話ができないと思います。

総合政策部というのは、今まで色々と名称が変わってきたと思いますが、地域支援課というのは、下関市内の地域、各地域を支援されているのか。また、それをどのようにして特徴を出すのか。

先ほども話が出たように、各地域には地域資源もあるでしょうし、リーダーシップを取れる人もおられるでしょう。

それについて、市がどの程度のアドバイスをして、ここはこういうものになるからこれを検討したらどうかというような、いわゆるその糸口を引っ張り出すようなことができるかどうか。

先ほどの話にも出たように、なかなか地域で思いついたとしても実現が難しいんです。

予算的なものは、地域は別にして、そういう行政的な選択肢を出すということ、そのことが難しいです。だからそういうことで、何らかの指導を頂きたいと思います。

【市民】

吉母町連合自治会の会長も来られていますので、私が申し上げるのは僭越ですが、私なりに吉母の意見を伺ってきましたので申し上げたいと思います。

吉母は、吉見地域の行政区域に含まれていますが、吉母は少子高齢化の問題にしても、旧市域から見れば44パーセントくらいの高齢化率になっています。

そういうような地区で、小学校の児童数も30人前後と、非常に児童数が減りまして、現状では複式学級になっていますが、住民としては、小学校の存続ということが、やはり地区の一番大切なことで、拠り所としている小学校が無くなると、私達も非常に寂しく思うわけです。そういったところで、小学校の存続ということが大きな一つの課題ではないかと思っています。

2番目には、地域条件の中で言えば生活環境の問題で、地区にお医者さんもいなければ、交通も非常に不便だというような、生活環境的に不便な部分が大変多いということ。

3点目として、産業の面で言えば、漁業者も農業者も若手の人がいないということで、特に農村部では荒廃地が極端に目立っていて、隣の室津地区に行くと、きちんと田んぼが植えられているんですが、吉母では本当に荒廃地が目立っているというような、そういうマイナスの面の3点が大きく挙げられるように思います。

しかし、吉母には良い所もあって、プラスの面が大きく2つ有る訳ですが、プラス面の一つは、本州最西端の毘沙ノ鼻で、これは日本でここしかないものですが、これが活かされていません。

これについて、詳しく色々の実態を申し上げれば、具体的に分かると思いますけど、そういう現状で、やはり毘沙ノ鼻が吉母にあるというのは、日本でも唯一の場所を持つてることであって、やはり地元の宝だと思います。それが活かされてないということ。

それからもう一つは、1億5,000万年前の恐竜の足跡が出たという、そういった素晴らしい所でもあるということ。

それから、私たち地元民が誇れるものとして風光明媚な景色で、本当に感動することが多いということでございます。

そういうような、プラスとマイナスの大きな両極端の二極を持った地域ですけれども、これについて簡単に申し上げますと、市街化区域の問題も先ほど出ましたが、吉母にも市街化調整区域が有り、その場所は非常に荒廃しています。

そういった背景から、宅地の造成であるとか、不登校児童を受入れて小学校の児童数を増やしていくとか、高齢者対策では、私たちは独居老人のためのサービスボランティアをやっていますが、バスなど交通の便が悪いので、安心バスというか、正式な名称はよく分かりませんが、有料でも良いので、ちょっとした買い物や病院に通院できるバス路線の整備を急がないといけないと思うんです。

そういった事で、大きくはそういう所を変えていく、生かしていくという組織が今は無いということが、今後の活性化に向けた大きな鍵になっていると私は思います。

【司会】

どうもありがとうございました。他にはございませんか。

【市民】

吉見小学校のPTAです。私も自治連合会長の意見に賛成です。

吉見駅の裏を市街化調整区域から外してもらって、人を増やしていかないと、どうしようもないと思います。

例えば、小串小学校は10年前まで児童数が200名以上いたのですが、今は100名を切ってしまって、各クラス15名といった現状になっています。

黒井にある誠意小学校も、少し前まで大規模な小学校だったのですが、現在は吉見小学校とほぼ同じ200名程度になっています。

人口が減っていくスピードも、加速度的になってくると、地域のまちづくりに向けたこういった話し合いをしても、それ以上に町から子供がいなくなると、何の意味もなさないのではないかと思います。

まずもって、これから20年後にそれだけ高齢化が進むということが分かっているんだったら、まず20年後のための子供を増やす政策を行って欲しいと思います。

そういうことであれば、先ほど、自治連合会長が言われたように、吉見駅の裏の開発をしないと、今後、吉見地区で祭をやっても子供がいらないという風になってしまうので、まずは子供を増やすためのまちづくりをして欲しいと思います。

【司会】

ありがとうございます。何か他にはございませんか。

【市民】

私はこの高齢化、少子化の問題には、企業努力も大事だし、国や市も努力しないとイケないと思います。私の住んでいる里町では、実際、廃墟になっていく家が増えています。

だけど、里町ですから、皆さん、見てもらったらいけど、新しい建屋が建って、小さい子も少しは増えてきています。

そういう状況に今はあるんだけど、それは置いといて、高齢化や少子化っていうのはこれからもずっと続いていくと思うんでよ、この吉見でも、下関市でも、日本全国でも。

そういう中であって、やっぱり組織のあり方っていうのを一番に考える。

私がこう言うと、吉母の方から袋叩きに遭うかも分かんけど、市から小学校の統廃合の話が1回あった時に、小学校は地域のやっぱりシンボルだから無くすことはできないという話になった。

高齢化、少子化において長期的に吉見の発展とか、吉母の発展を考えると、オラが町的な発想だけでいいのだろうかという事も、こういったまちづくり組織があれば考えられる訳です。

極端なことを言うと、室津が邪魔するとか色々と言っているけど、ドンとこの周辺、全ての小学校を統合して、要は経費が無いので、これを私は夢物語的によく言っているんですが、マイクロバスでも出せば、学校の先生も少なくなるので、その費用ぐらいいは出るんじゃないかと。

そして、1学年が4～5クラスとかにすれば、運動会なんかも活性化する。

小学校まで歩いて行けなければ、親御さんも連れてマイクロバスでそこまで行くと。

そういう風な考え方をしないと、この表を見ても、小さい所に留まり続けるという可能性は無いですよ。

だから、今、連合自治会長が言われた駅裏の開発、これはこれとして、いつまでも願っていかねばならないが、人数が少ないという事に対する対策というのは、もう少し目を開いて、今、私が言った事が正しいとかではなく、そういった目の開き方をして、良いアイデアを出していかないと、指を咥えて待つとるだけになってしまう。

理想は理想で良いが、そうはいかないんじゃないかということなんです。

【司会】

他にはございませんか。

【市民】

遅れて参加したので、途中から話を聞いたんですけど、今、私が30歳代の意見として、代表して言わせてもらえば、吉見の組織というものに関して、実際、どういう組織があるかということ、なかなか理解できていない状態です。

だから、まずは今ある組織がどういう形で動いていくかっていうことの明確化、我々に見えるような形にして欲しいという部分があるかなと思っています。

私は、こちらに帰ってきて10年未満なのですが、今からやっていくまちづくりの中で、この吉見地区の中、下関全体の中に、全く同じ状態の町というのは少ないかもしれませんが、どこか一つの町をモデルとして、見ていくような形で動くのも良いのではないかと思います。この地区と似ている所は、全国的にどこかあるかもしれませんが、その中でモデルの町がどういうことをやっているのかということも、一つ勉強として、意見なり何か情報交換等をして、お話を聞くこともまた一つの勉強になるので、それは先ほど自治連合会長が言われた駅裏の開発というのも組織の意見として取り入れて、そこを参考にしてまた違う形になって行くのではないかと思います。

基本的に、今は少子・高齢化はどの町でも続いていると思うのですが、それに対応するような形を、しっかりと皆さん、あらゆる世代で話をして、一つ一つ確実に移行していくための計画も大事になってくるのではないかと思います。

実際、30代、40代も居ない訳ではないですし、今、この地域に住んでいる、そんな人たちの意見というものを、どういう形で取っていくかということも大事ですし、それぞれの組織が運営形態をもう少し見渡せば、色々な意見も聞けて、ここに参加されているメンバー以外にも、良い意見を持っている方がいると思うので、また、そういうところから一つ一つ積み上げていければ、良いまちづくりが出来ていくんじゃないかと思います。

【司会】

ありがとうございました。もう予定時間を過ぎましたので、次の議題に入りましょう。

地域の将来を見据えた上で、問題解決や活性化について皆さん方のご意見を伺いたいと思います。皆さん何かご意見等ございませんか。地域課題についてと余り変わらない内容ですよ。それはもう課題の解決策がないから、課題となっている訳ですから。

今までのところで地域課題はほとんど出ていますから、特別これについてというのは無いんじゃないですか。問題の解決はまだ先の話として、今この場でできる訳ではないんだから。

【市】

一番最後に、今日のまちづくり集会を通して、次に向けてのお話をさせていただこうかなというのを通常のルールとしてきたのですが、皆さんの認識が非常に高いので、今お話を伺った中でも、最初の自治連合会長などが言われた、新しい期待感という話。

どこの地区でも、こうであつたら良いなという事は沢山あつて、だけど結局は、期待感はあるけれど、そのうち行政がやってくれることを期待して、指を咥えて見ていると、いつまで経っても、その地域はずっと不安感を抱えたまま、少子化だけが先行してしまうという展開にならざるを得ません。

そういう中で、今、皆さんの組織、主には確かに連合自治会で色々やって頂いていますが、どちらかというと、今までの既存組織と言うのは、あれもこれもしないといけないとなつて、通例の目的や、やらないといけない議題ばかりをせざるを得ないし、それで精一杯のところもあります。

しかし、今、最後に少子・高齢化に対して、一つでも地域で何か解決できる、または一つでも進展できるものがあつたら、実行することが大事だという話もありましたように、何かもう少し、連合自治会が中心ではあるのですが、連合自治会の役員が常に全体を統括しなければいけないという形だけではなくて、やることに追われるといった話もありますから、もう少し社会人の中でも、ある程度、調整役になる方がいてくれるのなら、普通の会社員の方でもやりたいと思えば、少しそういった調整役として、コーディネーターか何かになって頂いて、地域の課題を少しでも、何か新しく地域で、何かこういう方向でも決めていけば、何か一つでも皆の不安感解消に少しでもつながるとか、安心感が確保できていくとか、そういうことをまちづくり会議という形の中で、やってみたらどうかなと市は思っている訳なんです。

市の予算なんかの話もありますが、実は、市も色々な所の地域内分権とか、地域づくりの応援といった仕組みを見てきたのですが、実際、一定の額を市から支援して、何か目新しいことに地域で使う、例えばお祭なんかもそうですが。

確かに、お金が足りなかったから、そういったものに使いたいという気持ちも一杯ありますし、目新しいことに使っていくという所もあるのですが、今までと同じ活動に使っていくだけになってしまって、各地が行ってきた事の中にも、地域づくりが形骸化している所もある訳なんです。

現在のように、人口が減っていくのが見えていく中で、少し支えていけないものに対して、もう少し、一つでも何かしていきませんかという話をした時に、場合によっては、今、市が持っている予算を、新たなものに切り変えていく方法もあります。

市も、どんどんお金を出すということは時代的に無いですが、今までこういう風に個別に出していたお金をまとめ、新たなものに切り変えて出すことも出来るかもしれませんし、市が出来ることで、場合によっては大きな予算を投入していくことも出来るかもしれない。

場合によっては、市は一切お金を出せないけれども、そういうふうな新しい取り組み方、または考え方に市が協力出来るかもしれない。

先ほどの学校統合の話でも、地域の意見を1つにまとめるということは、とても大きな話だと思いますが、例えば運動会については、ある程度がまとまって交代でやったり、統一してやったり、対抗してやったりとか、そういうふうな新しい捉え方もあるかもしれません。

ですので、そういう風に解決策というのは、ある程度、1つずつ、2つずつ考えながら、こんなことをやってみようといったことを、先ほど最後に言われたことも、1つでも2つでも積み上げていく。そういう風な何かしらの組織があれば、一つ協議の場を持って、形づくっていくことで、それぞれの形で協力できるかもしれないという話でしたので、私たちは、そういうものをこの様な地区で、ちょっと考える場を持って実践して頂きたいと思っています。

また、それが市のスケジュールでも来年、再来年に向けて、もう少しそういったシステムを作っていくながら、そしてモデル地域というものを作ったり、何らかの形で動ければ良いと思っています。

まさに、駅裏の開発というのは、昔からこの地域の大きな願いだと思いますが、例えば、今は清末地区に随分住宅が出来ていますが、小月駅の周辺は殆どが駐車場になってしまって、ちゃんと市街化区域の良い土地があるのですが、必ずしも良い形で住宅地が出来ているという訳では無いのです。

だから、必ずしも開発されたからといって、良いものになるかどうか、本当のことはまだ分からないし、そこまであれさえあればということで、人口対策とか小学校対策を地域の皆さんが、それだけに頼っていたのではどうにもならないと思います。

話が長くなりましたけど、そういう風な中で、今日出た中で1つでも2つでも、こんなことをやってみようという話ができれば、それこそがまちづくり会議の持つ大きな実効性に近づくのかなと思っています。ちょっと間に挟みましてすみません。

【司会】

ありがとうございます。今、部次長から説明がございましたが、この件に関して何か本当に一つ大きな目玉になるようなものはございませんか。

何かこういった事を地域でやったら良いといった意見は。

今までは、もうほとんど市街化調整区域と吉見駅裏の問題等は毎年出ている話です。

それでもなおかつ、何かをやりたいというようなご意見はございませんか。

前田石油㈱の方から先ほど発言がありましたが、吉見地域にどういった関連の団体があるのかを全く知らないだろう。

色々な団体が一杯あって、体育振興会や婦人会など色々。そういったもの全部、その団体の長を集めて、今日はこの場に皆さん出席だろうと思ってお願いしました。

ここに来られていない団体もありますが、それも余程の何かがあったのだろう。

そういう意味で、そういった事を若い方達にも勉強してもらって、そういう制度と機関があるという事だけは少し頭に入れておいて下さい。

【市民】

駅舎の利用の話があったじゃないですか。

自治会が使えるといていた吉見駅駅舎の話はどうなったのですか。

【司会】

あれは何回か言ってみただけど、やっぱり難しい。

【市民】

だけど、誰かが借りればできますよね。ただし、コストが問題なんだよね。

【司会】

空き家にしとくのはもったいないよね。

【司会】

駅舎の問題も、それを利用しながら地域の発展ということは大いにあることだと思うね。何かやって欲しいという様なことはないですか。

【市】

子供が減る、少子化の問題というのはすごく難しいですが、結局、今はある程度、地域で出来る対応とか対策というのはあるんですかね。

【市民】

なかなか難しいですね。先ほど言ったように、吉見は昔から下関の中でもポツンと離れた所だからね。吉見地区の中にも、そういう考えを持つ人が昔はいました。

吉見自体で考えてみると、はっきり言って、今の時点では企業誘致というのはいけません、現実として。

そうすると、今、子供が増えるっていうのは、吉見地区に企業誘致して、工場ができて、そこに人が集まってきてそれで子供が増える。

それともう一つは、下関の市街地に勤める人が増えていくことがやっぱり大事。

それにはやっぱり、下関の市街地までの通勤距離なども関係するので、今の現実として、人口の増える可能性があるのは、旧市内で働く人が住む場所は、安岡止まりなのよ。

今はドーナツ化現象で、旧市内から勝山、長府、山の田、武久くらいまででしょう。それが今、人口的に言って、一番大きいのが勝山、それから山の田、綾羅木ですが、昔は田んぼだったけど、それが今は安岡止まりなのよ、下関の通勤者の住宅が。

だから、そういう団地的な、そういう土地のスペースも要るし、そういった土地が吉見には無い。そのことを前田石油俵の方が今、言った訳。

だけど、これは早急に、一朝一夕で解決できるものじゃない。

ただ、すぐに駅裏の土地区画を整備しても、市がそこに市営住宅、あるいは大きい企業が建つとか、これは分からないですが、そんな複合的要素が必要。

だけど、意識的に吉見にしても何かそういう遊休地を考えて、もう1つ言えば吉見中学校、水産大学の辺りも同じですが、もしも企業が持っていれば何かあそこをと色々ありますよね。企業がといっても難しい問題が出てきます。

【市】

本当、先ほども言われましたが、今日は課題がたくさん出て、解決策が無いので課題だ

と。どこもそうなんですよね。課題は出るんですけど、解決策というのは、なかなか出て来ないんです。それが当たり前かなと思っていますし、今日はそれはそれでもいいと私は思っています。その課題解決に向けて、やはり、今から知恵を出し合って、組織が出来てからでも十分なのかなと思っています。

あと前田石油(株)の方が言われたことに私も同感したのが、私も市内にある色々なまちづくり協議会なんかを全部把握しないといけないなと。どんな組織があるのか。

そうでないと、本当に色々な組織ばかり立ち上がって、そこがそもそも何をするのか。悪い言い方になるかもしれませんが、発展的解消というのもあるでしょう、また更に、話し合いの中で、これはどんどん進めて、色々とパワーアップしながら、ということもあるでしょうし、まずは知ることが非常に大事かなと思いました。

【市民】

他の中核都市で、そういう成功例があるかどうか、或いは、同じ下関の中でも小月、清末ではこんなことがあったよとか、旧4町ではそういう風にしたというのがあれば、行政はあちこち支援しているから、色々な情報を持っていると思うので、それはそれで良いことですから、何かそういう方法でもあれば教えて頂きたいですね。

【市】

そうなんですよ。私としては色々と説明するんだけど、なかなか皆さんのご理解を得られていないなという感触があって、やっぱり実際の例を出して、次の機会に、ぜひ実際の例を出しながら、またシンポジウムの中で、実はこれは山口県の山口市が、もう既にこういったのをやっているのです。21地区だったかな。

成功したところから人を呼んで、今度、話でもしてもらおうかと思っています。

その方がより分かり易いと思ったりもしています。

【市民】

それは必要ですね。成功例があっても、必ずしも、それを吉見に持ってきたとしても、当てはめられないこともありますから。それぞれの地域の事情というのがありますから。でも、頭の中では、そういうものがあればと思います。

【市民】

先ほど言った、例えば組織だとか、市がやっていること、自治連合会、自治会、婦人会、社会福祉協議会がやっていること、色々ありますよね。中学校のPTA、それから中学校の中でもコミュニティ・スクール。そこに今度は、運動の体育振興会、結局そういうのがどこまであるかというのは、我々は参加して、大体の概要は分かるけど、先ほど冒頭で言ったのがそこです。

そこが市でも評価できないでしょう、中学校・小学校のPTA、その辺が本当に評価できて、先ほど言ったように、要るもの、要らないもの、統合できるものがあるって、やる人が出てくると、もう少し活動しやすくなるのかなという思いはあります。

我々も、自分が出た会議以外の組織はよく知りませんから、若い人なんかは全然分からないと思う。それも自治会の役員を何年かやって、活動してきて初めて分かる。

あっちの会議には行きたくないな、でも行けば何か良い事があるからとか、色々ある訳。

そういうのを簡単に分かりやすく、本当は表にしていく人がいると良い。

こんなことなら、中学校、小学校、市全部だったら出来ると思うけど、そういうことは逆に努力をしない。

それともう1つ、ちょっと今日の話からはずれるかも知れないけど、まちづくりのメインは防災。

去年、中学校が大震災を受けたと想定して、中学校を中心とした防災避難訓練をした。それは非常に良いことで、私もそこで初めて防災について勉強させてもらったんだけど、吉見地区は割と安全なところで、恐らく、調べても震災による津波も影響も低いし、地震もあまり発生しない。だから、みんな地域住民が安心だというふうに考えている。

この前の自治会長会議でも、そういった時に、我々はどこに逃げるのかと。

それは隣の自治会長でも答えられませんので、市に色々聞いてみました。懇切丁寧に防災課の人が教えてくれました。だけど、じゃあ吉見の里町はそういう津波があった時にはどうすれば良いのかというと、素人の私が、内閣府とか国土地理院の事を調べたところで答えは出せません。アドバイスはできるけど。

だからそういうもののアドバイスを表的にして出す。

実際に、下関地区は来年ぐらいに津波、地震について、もっと詳細なものが出るけど、アドバイザーというか、そういうので防災課が自治会に来て、話を聞いて、具体的に指導を、津波が4メートル来るけど、ここは8メートルあるから安全よという話で済まないんだよね。

だから、そういう事も少し市民目線に立って、突っ込んでいく。私の話では、ちょっと分かりにくかったかも知れませんが、その2つは本当はやってやれないことじゃない話で、お金はそんなに掛からないと思います。

そういう風にアドバイスしていきながら、市民の協力も得て、市ともうまくキャッチボールをしていければと思います。

【司会】

どうですか、これはマニュアル通りには進んでいませんが。

【市】

大丈夫です。

【市民】

今日が初めてなものですから、すみません。

【市】

何日か、こういう風な会議をしていく中で、私の組織ではなかなか協力してくれる人が少なく困っていますという発言をされた方があって、ただ、こっちの組織では、声を掛けてくれればお手伝いできますよ、という話があったんです。なかなかこういう色々な団体の方が集まって話をする場が無いんです。

今は、その組織を知らない訳ではないんだけど、直接的に、そんなに悩みに関わっていないから、割りと当事者だけは一生懸命、その組織の中で苦労されておられるけど、ちょっとゆったりした、こういう風な時間、余りゆったりしていないかもしれませんが、そ

の中で、ちょっと発言して頂ければ、私たちはいつでも声掛けてくれたら行きますよといった事もあるんです。

でも、通例の会議の中だけでは、なかなか決められた色々な事をやらないといけないと思っているのも、こういった話も出来ない事もありますし、先ほども防災の話も、地域によっては、本当に自分たちはどうしたらいいか、何にも分からないという話もあったりして、ただ訓練するだけ、言われた通りにしているだけで、もう少し全体で、本当の避難ルート意識であるとか、色々と身に付けておくというのは、地域で持つだけでも安心感があります。

色々なことを、まちづくり会議とかの中で、1つでもやっていくと、地域の安心が少し高まり、それにも、行政が協力して何らかの予算を掛けて、何か出していくという事がうまく出ていけば、その地域の力は強固になっていくし、先ほども少子化の話でも、昔は温泉に行ったら、大体みんなお年寄りの方が、どこの子と、どこの子という話をしていたが、今は結婚の話でも、仲人さんが昔は多かったですけども、今は無いですね。

だから地域でと言っても、地域で新しい家庭ができるのを応援していくという形も、今は無くなってきています。良いか悪いかは分かりませんが。

地域の個性として、そういう色々なことで、地域による子供たちの数を、ある程度一定にしていけないと、いつの間にか、統合直前になって地域からは要望しか手が無いといった状況。3人しかいない、5人しかいない、5年経っても人が居ないとなって、要望だけで勝負するというのは、なかなか難しい。

市もルールに則って進めている訳で、意外に広い世代で話をしないと、子育て対策として新たにもう1人産め、もう2人産めと言っているだけでは、なかなか実現が難しいことでもありますよね。

だけど、そうやって何ができるかという、そういうものでも、もし考えたら、すごく良い状態にまではならないまでも、何とか維持できるという地域にはなれるかも分かりません。

そういうのを、またこういう形で考えていくきっかけとして、ちょっと落ち着いてこういう風な場が出てくるといいと思っています。

今回、ご案内したメンバーの方々は、こちらがある程度、支所長さんは連合会長にご相談させて頂きながら、ご案内させて頂いていると思いますが、今後は、地域の中で、もう少しあの人も連れて行こう、こういう方も連れて行こうという形で良いので、そういうことも踏まえて、地域で少しずつ、なかなか一度に沢山の課題を解決するのは難しいのですが、絞って何か、そういうのを考えてみると、場合によっては地域としての何か体制ができるかもしれないと思っています。

【司会】

せっかく、こういう会を作って貰ったので、地域が要望して、行政に活動して貰うというのをやりたいんだ。地域だけで出来る問題じゃない。

【市】

我々も時々言われますが、地域への丸投げではなく、他の先進市でも、やっぱり地域が

吉見地区まちづくり集会（H25.9.23 開催）

主体となって進められていますし、先ほど言った少子化の事などは、地域だけでは解決が難しい、どうしようもない問題ではあるのですが、そういう事にも努力していかなければならないと思います。

本当は、市街化調整区域の解除が一番手っ取り早い解決策かなとも思いますし、また面白かったのが、小学校をどうしても残したいという意見。これも教育委員会が地域の意見を聞きながら進めることになると思います。

【市】

それでは吉見地区のまちづくり集会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。